

老年的超越概念の検討

—宇宙的意識と自然に対する感覚の関係性に着目して—

中島 千宏

■ 第1章 序論

自然との触れ合いは人間の心身の健康にポジティブな影響を与えるとされる。特に身体的、認知的機能の低下や社会的つながりの縮小が避けられない高齢期において、自然の存在が高齢者の身体・心理・社会的側面に良い影響をもたらすと報告されており、日常生活における自然との触れ合いは生涯に渡って重要であると言える。日常での自然との触れ合いは、自然への畏敬の念や一体感を呼び起こし、高齢期の幸福感に寄与する「老年的超越」という価値観の発達的变化につながる可能性がある(Tornstam, 2005)。老年的超越理論が説明する変化のうち、宇宙的意識という領域では、時空間や生死に対する認識の変化や、過去から未来へと続くあらゆるものとのつながりを感じるようになることとされる。宇宙的意識は老年的超越の中核的概念であるが、類似概念との関係性や文化差の影響が考えられ、概念的検討の余地がある。

本研究は、自然に対し人間が抱く感覚に着目し、老年的超越の宇宙的意識概念の検討を行った。老年的超越と自然に対する感覚の関連を検討するにあたり、Awe 感情に関する理論的枠組みを用いた。Awe 感情とは、宗教的・神秘的な力、カリスマ的な権力、自然の美しさあるいは脅威など、自己を超越した大いなる力の存在に触れた際に生じる感情を指す(Keltner & Haidt, 2003)。Awe 感情の喚起に伴って生じる自己や世界に対する認知的枠組みの変容は、老年的超越理論における価値観の発達的变化と類似している。自然との触れ合いによる Awe 感情の喚起とそれに伴う認知的枠組みの変容が、老年的超越の発達プロセスに介在していると仮定し、宇宙的意識と自然に対する感覚との関連を明らかにすることを目的として一連の研究を行った。

■ 第2章 老年的超越の宇宙的意識概念の再検討(研究1)

研究1は、高齢者が周囲の物事とのつながりをどのように認識しているかを記述することを目的とした。80歳代前半の地域在住高齢者15名を対象に、日常生活の中で過去から未来の世代の人々、老いと生死、神秘性などについてどのように考えているかを尋ねるインタビュー調査を行った。その結果、調査協力者は、自分の人生を【過去と現在のつながり】や【世代を超えたつながり】の中に位置づけ、死者や人智を超えた存在を通じて自身の命の連続性を感じ、【生と死のつながり】や【人智を超えた存在とのつながり】を認識していた。また、自然に対し、調査協力者は「人智を超えた存在」として神秘感や一体感を認識していたことから、自然とのつながりの感覚を老年的超越の宇宙的意識の新たな構成要素として検討する必要性が示唆された。研究1の結果は、宇宙的意識概念の精緻化に向けた具体的な修正の方向性や、性別、信教、居住地、身体状況、社会的要因を背景とした人生経験の違いなどが超越的なつながりの認識に影響する可能性を提示した。

■ 第3章 自然との触れ合いと Awe 感情および老年的超越の関連の検討(研究2)

研究2は、自然との触れ合い、Awe 感情、老年的超越の関連性を明らかにすることを目的とした。20～69歳の600名を対象に Web アンケート調査を実施し、Awe 感情に関する理論的枠組み(中山, 2020)に基づき共分散構造分析を行った。その結果、自然との触れ合いが Awe 感情を媒介して宇宙的意識に影

響することおよび、自然とのつながりの感覚が老年的超越の宇宙的意識に内包される要素である可能性が示された。また、自然との触れ合いが Awe 感情や自然とのつながりの感覚に与える影響は女性においてより大きく、自然の捉え方には性差があると考えられた。研究 2 から、自然との触れ合いによって喚起された Awe 感情が老年的超越の傾向に影響するという一定の関連性が認められた。また、老年的超越と自然に対する感覚の関連性について、今後性差を検討する必要性が示された。

■ 第 4 章 総合論議

本研究は、自然に対し人間が抱く感覚に着目し、老年的超越概念の新たな構成要素を提示した。研究 1・2 から、自然に対する神秘感や一体感などのつながりの感覚が老年的超越の宇宙的意識に内包される要素である可能性が示された。また、自然の捉え方に関する男女差の存在が認められた。今後、自然との触れ合いが老年的超越の発達に与える縦断的な影響や性別などの関連要因を考慮し、老年的超越と自然に対する感覚の関連性についてさらなる検討が求められる。研究 1 で示された時空間や生死、人智を超えた存在とのつながりの認識や、研究 2 で検証した Awe 感情に関する理論的枠組みを踏まえ、老年的超越概念の精緻化を進めることが期待される。(臨床死生学・老年行動学)